



# 関中央ロータリークラブ

2019-2020 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：岐阜県関市池尻 91-2  
事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278  
会長 吉田和也 副会長 高井良祐 幹事 土屋敏幸 クラブ会報委員長 長谷川修

2019~2020年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ

「One for all, All for one.

協力しあい成長するロータリー！」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1987回例会 2019年9月5日(木) 担当 国際奉仕委員会  
卓話 関市教育委員会 学校教育課 課長補佐 佐賀あゆみ様  
テーマ 「令和元年度 関市学校教育夢プラン 第7回中学生海外研修(シンガポール研修)を終えて」

前例会の記録 第1986回 2019年8月23日(金)  
ガバナー公式訪問 3RC合同例会  
ホスト 美濃RC 担当 会長・幹事

\*点鐘

\*国歌斉唱「君が代」

\*ロータリーソング「奉仕の理想」

\*お客様の紹介 関中央RC会長 吉田和也

R I 第2630地区 ガバナー 辻正敏様

R I 第2630地区 地区代表幹事 井熊信行様

東海北陸道グループ ガバナー補佐 深瀬清様

R I 第2630地区R財団部門

補助金小委員会 委員長 堀部哲夫様

\*会長挨拶

美濃RC会長 市原孝雄様

こんにちは、まずもって本日は辻ガバナーを始め先ほど紹介されました地区関係者の皆様には公式訪



問に美濃の地に来て頂きありがとうございます。  
私は3クラブ、関RC・関中央RC・美濃RCを代表して挨拶させて頂きます美濃RC会長の市原孝雄と申します。

さて、関市・美濃市は世界遺産の宝庫です。まず、清流長良川は美濃市・関市を流れる世界農業遺産です。また、曾代用水は、世界かんがい施設として世界遺産に認定されており、美濃市から関市に流れています。そして美濃和紙は手すきが世界遺産に認定され、来年行われるオリンピックには表彰状に透かし入りで使われます。また、先月の『ロータリーの友卓話の泉』には、長良川の鶺鴒が掲載されています。関市には1000年を超える歴史を持つ小瀬鶺鴒が有ります。

今年度のR I会長のテーマは『ロータリーは世界をつなぐ』で有り、辻ガバナーの2630地区テーマは『総天然色』です。この言葉には何かキラキラした響きがあります。7月号ロータリーの友『ガバナーの

横顔』に辻ガバナーの紹介記事が有ります。39年間ロータリーを皆出席した事とか、1990年には津RCで幹事をやりながら青年会議所の理事長をされたことは正に恐るべき事です。そしてガバナーの良い人柄がいっぱい掲載されて居ます。その様なガバナーを地区に頂いて居る事は、我々の誇りです。そんな中、関市・美濃市は歴史と文化と世界遺産の宝庫です。私たち三クラブはその地に合った事業に取り組みロータリーの花を咲かせて参りたいと思います。最後に、今日のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

#### \*出席委員会

会員数 34 名、本日の出席 19 名です。

#### \*ニコボックス委員会

・会長・副会長・幹事

辻正敏ガバナー、1年間宜しくお願ひします。

19 名のご投函ありがとうございます。

#### \*幹事報告

・次週 8 月 29 日 (木) は休会です。

#### \*本日のプログラム

##### 辻正敏ガバナー「卓話」

2019-20 年度国際ロータリー会長のマローニーさんは Rotary Connects The World (ロータリーは世界をつなぐ) をテーマとしました。これは今年 1 月にサンディエゴで行われた国際協議会で発表されました。私たち第 2630 地区のテーマは、ガバナーエレクト帰国報告会で発表した「総天然色」です。なかなかいいテーマだとガバナーは言っています。会長のマローニーさんは、国際協議会の際、前年度の会員減少が過去にない大きなものだったことに触れ、増強や退会防止の大切さを述べられると共に、その方法にも大きく踏み込んで話をされました。よほど衝撃的なことだったのでしょう。私たちの日本はまだまだ元には戻っていませんが、激しい会員減少が止まり始め、増加に転じてきているところだったので、世界の会員数が激しく減少しているなど思わぬことでした。

そこで最初の強調事項。それはロータリー自身の成長だと訴えられました。それをマローニーさんは、

「Grow Rotary」と表現しました。彼の表現は、「穴の開いたバケツにいくら水を入れても抜けていくばかり。それが今のロータリーではないか」と。そしてロータリーを成長させなければならないと言います。ロータリーというバケツをきちんと修復する。あるいは今の時代に合った新しいものに変える必要があります。会員減少は組織としては大変な問題です。彼は続けます。職業分類を強化して会員を増やし、新しいクラブを作らなくてはならない。そして子供たちや若い人たちを大切にしなければいけません。ロータリーのリーダーシップの道をもっと歩きやすくしなければなりません。増強や拡大の前に行うべきことは、ロータリーの成長です。仕事をしながらロータリーが出来なければいけない。家族、仕事、ロータリーのバランスを考えなくてはならないと言っています。Grow Rotary は単に会員を増やそう、組織を大きくしようと言っているのではなく、きちんと続いていくように(持続性)、成長していきましょうと言っています。公共イメージの向上やロータリーの認知度向上もその一つです。先ほども大切にしなければいけないと話した、子供たちや若い人たち。彼らとの結びつき・つながりの大切さです。今年の国際協議会に初めてローターアクトたちが正式に招かれました。世界で 60 名。日本から 3 名。私は日本からのローターアクターに質問しました。「どうしてローターアクトに入ったの」。予期せぬ答えでした。その答えは「奉仕がしたかったからです。」と明確でした。私は驚きました。私は彼らの年の頃、「奉仕がしたい」と思ったのでしょうか。私は思いませんでした。皆さんは思われたのでしょうか。その当時の私の感覚は、今話しているローターアクターとは遠く離れているように思います。しかしこうして言葉を交わし話し合っていくうちに、若い彼らと私たちの思いは、どこかで交わるかもしれません。どんどん話をすることが大切です。

青少年プログラムはロータリーにとって避けては通れないものです。今触れたローターアクトの他にもインターアクト、青少年交換等があります。いろいろなハラスメントや最近多く発生する災害時対応など様々な問題も起こっているようです。しかし私



私たちは諸問題を真正面で受け止め、諸問題への認識を深め、対応力を十分持って取り組まなければなりません。このような表現があります。船は港に居れば安全です。乗員を乗せて港を出て航海に出れば、静かな風の日もあるでしょう。しかし荒れ狂う嵐に遭遇することもあります。そのような時にどうすればよいか、常に十分な知識を持って起こり得ることに適切な対応して乗員を守らなければなりません。そして目的の港についた時、その船は多くの人たちの素晴らしい喝采で迎え入れられるでしょう。この船がロータリーです。

ちょっと難しい話になりますが、ロータリーの定義といってもよいとされていますロータリーの中核的価値観というものがあります。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの5つです。これが昨年の国際協議会で「ビジョン声明」として出されました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」という声明です。それを受けて、目的を達成するための戦略計画があります。「より大きなインパクト」、「参加者の基盤拡張」、「参加者の積極的なかわり」、そして「適応力を高める」です。

2017-18年度 Make a Difference (変化をもたらす)、2018-19年度 Be The Inspiration (インスピレーションになろう)、そして本年度2019-20年度は「ロータリーは世界をつなぐ」です。「変化とは何？」と考えて時間が経ち、「インスピレーション」と言われて驚きました。そのような中、「あっ、こんなのはどうだろう」と思い付き。そうしたら「そのような思いや考えを持った人が手を取り合っていきましょう」と考えたら、まさに「ロータリーは世界をつなぐ」です。今年度のミッションは、「人びとが手を取り合って行動しよう」です。簡単に言えば、この2017-18年度からのテーマ、これが戦略計画だと考えても良いのではないのでしょうか。

では具体的にはどうしましょうか。「人々が手を取り合う」ために、まずクラブや地区のリーダーが率先して積極的に参加する。会員の維持と新しい会員の増強。出来ればローターアクターや40歳未満の若

い会員、女性会員の増強。新しいクラブを作るのもいいでしょう。それとロータリーと関わっている若い人たち、インターアクト、ローターアクトとのロータリークラブ会員間の相互の積極的な参加・協力。地元のJCや商工会議所青年部との交流などもいいですね。

「行動する」とは、例えばポリオ。ポリオ根絶活動でのロータリーが果たしている役割をはじめとしてロータリーが取り組んでいることを伝えましょう。R財団補助金を活用してのプロジェクトを増やすと共にR財団への年次基金、ポリオプラス、恒久基金への寄付の増進。「世界を変える行動人」キャンペーンの促進などでしょうか。これは新しいグローバル広告キャンペーンで、ガイドラインはありますが、クラブや地区でカスタマイズできます。一度ウェブサイトブランドリソースセンターにアクセスしてみてください。

今年4月の規定審議会でメーキャップの話がありました。今まで例会の前後14日間だったメーキャップを、そのロータリー年度内にすればよいということです。いろいろ物議を醸していますが、年度内のメーキャップは最大期間で、今まで通りでよければそれぞれのクラブ細則で決める。例会の前後14日も30日でも構わないわけで、あくまでクラブが決めれば良い訳です。どんな変化が訪れても中核的価値観やビジョン声明を忘れなければロータリーは変わりません。より皆さんが居心地の良いロータリーにするためにロータリーを成長させるのです。それには家族や若い人たちとのつながりを大切にして会員の基盤を強化しましょう。もう少しのところまで来ているポリオ根絶立ち上がりましょう。R財団が初めて寄付をしたのは1930年国際障害児協会への500ドルです。もっと言えばポリオに感染した子供たちをサポートする協会でした。ロータリーのポリオとの戦いは90年に及ぶと言ってもいいでしょう。R財団の資金を活用して良い変化をもたらすための事業を行いましょう。そして寄付もしましょう。すべてロータリーの成長です。

先日マローニー夫妻が来日されました。詳しく言うと、八戸、福島、東京・神奈川、そして名古屋に

みえました。お隣の 2760 地区の名古屋での歓迎晩餐会に私も招かれて出席させていただきました。マローニーさんは 7 回？、奥様のゲイさんは 5 回来日されてみえるようです。マローニーさんは国際大会大阪大会の準備委員も務められていたそうです。9 月からは行事が沢山あり行き先が限定される。7 月 8 月なら自分たちが行き先を決められるので真っ先に日本に来たと夫妻は言ってみえました。その際こんな話をされました。マローニーさんのホームクラブであるアラバマ州ジューケーター RC が 1992 年、青少年交換で日本の女子高校生をホストしました。ヨウコさんです。マローニーさんはヨウコさんを預かりました。ヨウコさんは奥様のゲイさんが卒業した高校に通い、ヨウコさんを通じてヨウコさんの家族との家族ぐるみの付き合いが始まりました。留学期間が終わりました。1999 年、マローニーさんが来日された時、ヨウコさんに連絡しました。しかしヨウコさんは亡くなっていました。この話をされる時、マローニーさんの目は潤んでいました。そして私が出席させていただいた晩餐会にヨウコさんのお母さんと呼んで欲しいと言われたようです。ヨウコさんの死は辛いことですが、晩餐会での再会はとても素敵なものでした。そして翌日奥様のゲイさんはヨウコさんのお墓参りに行かれたそうです。暖かいマローニーさんが、そしてゲイさんが私たちの年度の代表で良かったと感じました。この出会いは大切にしたいと思っています。さあ、いよいよクラブがロータリーの理念に基づき、自由に主導権を持ってロータリー活動をする時が来たようです。みなさんの家族が、事業所が、そしてクラブが生き活きとロータリーを楽しまれ、この地区に居るロータリアンとロータリークラブの数だけ人間味あふれる素敵な花を咲かせ、総天然色の 2630 地区を作りましょう。

**\*お礼のことば閉会挨拶 関 RC 会長 土屋佳久様**

**\*点鐘**

**<次例会の案内>**

第 1988 回 2019 年 9 月 15 日 (日)

東海北陸道グループ I . M.

ホスト：各務原中央 RC 担当：会長・幹事

会場：各務原市産業文化センター